

## 花山院菩提寺

有馬富士ふもとの霧は 海に似て  
波かと聞けば 小野の松風

有名なお詠歌とともに西国三十三所巡礼の番外札所の一つとして知られる花山院<sup>かざんいん</sup>菩提寺は、市内でもっとも参詣客が多い寺院のひとつです。



花山法皇御廟石塔

現在の菩提寺の境内には、薬師堂(本堂)のほか花山法皇殿、花山院御廟所、荒神堂などの史跡が所在しています。これらのうち番外札所としての同寺の歴史的な成り立ちを考える上で、もっとも重要な役割を果たしたのが「御廟石塔」と呼ばれた御廟所です。戦国時代の古文書にも名前がみえる菩提寺ですが、番外札所として位置づけられるのは江戸時代後半以降のことと考えられます。一方で遅くとも江戸時代初期にはこの石塔が、法皇の廟所として知られていたことが当時の名所案内などからわかります。御廟所の石塔は南北朝時代から室町時代の作風をもつとされる宝篋印塔<sup>ほうきょういんとう</sup>(市史別編2「さんだの文化遺産」93号)です。地元には伝わる古絵図には菩提寺の象徴としてこの石塔が大きく描かれており、著名な史跡であったことを示しています(『市史研究さんだ』第5号参照)。

ところでこれほどまでによく知られた「御廟石塔」ですが、不思議なことに皇室のご廟所としての指定は受けていません。これは明治維新直後にご廟の調査が行われた際に、参詣が不便になることをおそれて、あえて申告しなかったからだとも言われています。

本殿の西側にたたずむ荒神堂は、現在は<sup>ほこら</sup>祠に祀られている八幡神とともに、古くから菩提寺の鎮守として位置付けられていました。寺院境内の鎮守神は、明治の神仏分離の際にはその位置づけが微妙になる場合も少なくないのですが、同寺の荒神堂は「かまどの神さん」などとして広く人々の信仰を集めていたこともあって、境内の主要なお堂の一つとして維持されてきたのです。

早春のひとつき、菩提寺の境内から三田盆地を一望しながらふるさとの歴史のあゆみに思いをはせてみてはいかがでしょうか。